

平成 24 年 12 月 20 日

総合学科について

広島県立祇園北高等学校
校長 前 眞一郎

総合学科においては、多様な科目が開設され、多くの生徒が自分の希望する学習ができることに満足しており、卒業後は、様々な分野に進学・就職をしている。とりわけ、入学者の大多数が大学進学希望の学校では、生徒個々の進路希望及び最近の大学入試の多様化に対応した教育活動を展開することが可能であることから、生徒の進路実現の面で実績をあげている。

一方、生徒に自己の進路の方向に沿った科目選択をする力をいかに身に付けさせるか、また、そのために教員の指導力をいかに高めるかなどの課題がある。

また、1 学年 1 学級規模の学校について、学校規模が小さく、多様な科目を開設することが難しいなど、総合学科としての特性が発揮しにくくなっていたことから、普通科に改編したという事例がある。

総合学科については、こうした現状を踏まえ、普通教科及び専門教科の多様な科目の中から生徒が主体的に履修したい科目を選択でき、生徒の多様な興味・関心、進路希望等に応じた学習を可能にするという特質を一層生かせるよう、今後もキャリア教育の充実を図るとともに、系列や設置科目の見直しなどを検討していく必要がある。

その際、教育活動の充実を図るために、地域住民や企業関係者等の外部の人材の活用や、近隣の専門学科を設置する高校との学校間の連携など学校の従来の枠組みを越えた仕組みづくりを研究する必要がある。

なお、専門学科の設置が少ない中山間地域においては、より多様な科目の中から生徒が主体的に履修したい科目を選択できるよう、総合学科の設置を視野に入れながら、地域の生徒の学びのニーズに柔軟に対応できる学校の在り方についても検討する必要がある。